

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-------------|
| 建物名称 | 特別養護老人ホーム 宝生苑 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 京都府京都市伏見区桃山町66番3 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 0 | 平均居住人員 | 150 人 |
| 気候区分 | 地域区分IV | 年間使用時間 | 8,760 時間/年 |
| 建物用途 | 病院 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2014年10月 予定 | 評価の実施日 | 2013年12月10日 |
| 敷地面積 | 1,983 m ² | 作成者 | 山田 |
| 建築面積 | 1,177 m ² | 確認日 | 2014年1月14日 |
| 延床面積 | 3,243 m ² | 確認者 | 山田 |

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (160 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 67% (107 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 67% (107 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 67% (107 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 3.0 |
| 温熱環境 | 2.6 |
| 光・視環境 | 3.3 |
| 空気質環境 | 3.2 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 2.5 |
| 耐用性 | 2.9 |
| 対応性 | 2.7 |

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 2.0 |
| まちなみ | 3.0 |
| 地域性 | 2.5 |

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

| | |
|-------|-----|
| 建物の | 3.0 |
| 自然エネ | 3.5 |
| 設備システ | 5.0 |
| 効率的 | 3.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.0 |
| 非再生材料の | 2.9 |
| 汚染物質 | 3.3 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 4.3 |
| 地域環境 | 2.0 |
| 周辺環境 | 2.4 |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---------------|--|---|
| 総合 | 医療、介護のサービスを充実出来るような設計を行った。 | |
| その他 | 0 | |
| Q1 室内環境 | バルコニーを設置することで日射を遮る配慮を施した。 | Q2 サービス性能 各室の有効面積は法定面積より大きくし、ゆとりを設けた。 |
| Q3 室外環境 (敷地内) | 介護の車は北面・西面に駐車し乗降スペースを確保したその他の部分には出来るだけ緑地を設けた | |
| LR1 エネルギー | エレベーターのインバーター制御の採用により省エネを配慮した。 | LR2 資源・マテリアル 水洗に節水型を採用し水資源の保護に努める。非再生資源の削減や、リサイクル製品の分別回収を行う。 |
| LR3 敷地外環境 | 駐車場を確保し路上駐車が無いように配慮した。 | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される